



総合学科、30年の進化

育成を目指す資質・能力を再定義し、 生き方をデザインするための教育を追究

ひ た み く ま 大分県立日田三隈高校

1分 で分かる軌跡

総合学科としての先進的な取り組みで注目を集めてきた大分県立日田三隈高校。しかし近年は、生徒数の減少などの課題を抱えていた。そこで同校の教師は学校を活性化させるため、長年同校が生徒に育成することを目指してきた資質・能力を見直し、キャリア教育を再構築することを決意。若手、ベテランといった壁を越えて、教師たちは活発な議論を行った。さらに、生徒の多様な興味・関心に応える授業や課外講座を新たに開始。「自らの生き方をデザインする」という同校の総合学科としてのスローガンを具現化するための取り組みを果敢に展開している。

#総合学科 #資質・能力

学校概要

設立 1964（昭和39）年
形態 全日制/総合学科/共学
生徒数 1学年約60人（1年生）
2024年度卒業生進路実績
4年制大は、国際医療福祉大、久留米大、筑紫女学園大、中村学園大、福岡女学院大、福岡大、長崎外国語大などに15人が合格。短大・専門学校進学44人。就職30人。



進路指導部
藤竿勇輝
ふじさお・ゆつき
同校に赴任して2年目。
英語科。



総合学科主任
熊谷芽紅美
くまがえ・めぐみ
同校に赴任して7年目。
家庭科。



主幹教諭
甲斐浩一郎
かい・こういちろう
同校に赴任して2年目。
商業科。



指導教諭
小野由紀子
おの・ゆきこ
同校に赴任して2年目。
家庭科。



校長
徳光省吾
とくみつ・しやうご
同校に赴任して2年目。

図1 「シン Mikuma PAS System」の概要

Peer 助け上手だし、助けられ上手 Self 自由を乗りこなせる	
【育成を目指す9つの力】 伝える力・思いやる力・聴く力 (Peer) 提案する力・考動する力・挑戦する力 (Action) 計画する力・選択する力・創造する力 (Self)	
1年次 PAS First	■産業社会と人間 上級学校の訪問や地域でのフィールドワークを通して、自分や社会を知り、自分と社会との接点について考える。 【育成を重視する力】思いやる力、聴く力、選択する力
2年次 PAS Second	■総合的な探究の時間 インターンシップや興味のある職業に就いている社会人へのインタビュー、ライフプランの作成などの機会を生かして、1年次に身につけた知識や経験を実践する。 【育成を重視する力】考動する力、挑戦する力、計画する力
3年次 PAS Third	■総合的な探究の時間 希望する進路や興味・関心に応じて設定したテーマに沿って、ゼミ単位で調査・研究・発表に取り組み、「卒業論文」としてまとめる。 【育成を重視する力】伝える力、提案する力、創造する力
30歳 PAS Final	■30歳のレポート 自分の「これまで」と「これから」を見つめ、「人生を正解にする」最終課題。高校時代の思い出、今の自分やこれからの自分、当時の先生へのメッセージや後輩の高校生に伝えたいことなどを自由にまとめる。

「シン Mikuma PAS System」では、「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」に連続性を保たせ、豊富なフィールドワークを通して、実践的に自分の生き方を探究することを目指す。 ※学校資料を基に編集部で作成。

お勧めの分掌
管理職
教務担当
進路担当
担任

変革の背景

生徒数の減少などにより、
学校の活力が低下

1996年度に大分県で初めて総合学科を開設した大分県立日田三隈高校。2003年度には、「調べる力」「まとめる力」「発表する力」「聞く力」の「4つの力」を土台に多様な資質・能力を育むキャリア教育「Mikuma

PAS System」を構築。また、同校の教育の最終課題として、30歳の時点で高校での学びや高校卒業後の人生を振り返る「30歳のレポート」の作成・提出を卒業生全員に呼びかけるなど、自身の生き方を考えるための先進的な教育活動で注目を集めてきた。しかし、かつて教頭として同校に勤務し、24年度に4年ぶりに校長として赴任した徳光省吾校長は、同校の様々な変化と課題を感じた。

変革の一手①

育成を目指す資質・能力を
活発な議論を通じて再定義

「生徒数は減少し、入学定員充足率も70.5%にとどまっています。特別活動や部活動が停滞するなど、学校の活力の低下を感じました」
放課後になり、早々に生徒が帰宅して人がなくなった校内で徳光校長は、在校生にとっても地域の中学生にとっても魅力ある学校をつくらうと固く決意した。

徳光校長は育成を目指す資質・能力を時代の変化に対応したものに再定義することが必要だと考え、まず、「Mikuma PAS System」の再構築に着手。その中心的な役割を、同校のカリキュラム・マネジメントの推進などを牽引してきた指導教諭の小野由紀子先生に委ねた。
小野先生は、24年度2学期にすべての教師が参加し、育てたい生徒像について語り合う「三隈の未来会議」を開催した。管理職やミドルリー

ダーが新しいゴールを示すだけでなく一人ひとりの教師の心に深く刺さるものにはならないと考えたからだ。

「本校が総合学科を開設した約30年前、私も同僚たちと総合学科のあり方について議論しました。当時のように『三隈の未来会議』は先生方が自由に語り合う場にしたと考えました」

続けて小野先生は、「三隈の未来会議プロジェクト」を発足。毎月1回、約半年間にわたる話し合いを通じて、育成を目指す資質・能力の再定義を目指した。メンバーは若手を中心に、学年主任や主幹教諭などが加わり、さらに、多様性を重んじる徳光校長の発案でALTも参加した。

同校の卒業生である総合学科主任の熊谷芽紅美先生は当初、「4つの力」の再定義は難しいのではないかと思っていた。これまで同校は、「4つの力を含む10の力」「4つの力+1」など、育成を目指す資質・能力を様々設定してきたが、「4つの力」は常に含まれていたからだ。

「小野先生は、『4つの力』は必ず含めなくてはいけないものではないとおっしゃいましたし、私もそのつ

もりでプロジェクトに参加しました。でも、地域にも親しまれてきた『4つの力』を含まないものにするのは困難だろうと思っていました」

議論は生徒の力によって加速することになる。熊谷先生が担当する「産業社会と人間」で、地域の他の高校と自校の学びを比較する活動に取り組んだ生徒が、「4つの力には学んだことを実践する力が含まれていない」という意見を上げたのだ。

「変化する社会を生きる生徒の声を聞いて、学校も変わっていくべきなのだと思います」(熊谷先生)
生徒の意見を聞いた小野先生は、プロジェクトの原案を生徒に示して意見をもらい、修正を加えた。このような経緯を経て、育成を目指す資質・能力を「9つの力」に再定義。「シンMikuma PAS System」(P.25) 図1)として、校外外に公開した。

変革の一手 ②

生徒の学びを促す 多様な機会をつくる

在校生にとっても中学生にとつ

も魅力のある学校づくりの取り組みとして始まったのが、「日田未来学」と「DC(ダイバーズ)講座」だ。

日田未来学は、すべての教科において、年間に一度は地元・日田市をテーマにした授業を行うというもの。日々の教科での学びは将来、地域の役に立つものでもあることを生徒に実感させたいと考えた徳光校長の発案で始まった。

例えば、地理歴史・公民科の「日本史探究」では、教科書に載っていない日田市の歴史を考察し、芸術(美術)では、思わず手に取って買いたくなる日田市のお土産を考えるなど、各教科ならではの切り口で地元・日田市を学びのテーマとした(図2)。
主幹教諭の甲斐浩一郎先生は、担当する「ビジネス基礎」で、生徒に地域課題に取り組ませた。

「高校の授業で学んだことを生かして、地域課題を解決するアイデアをグループで出し合うアイデアソンを実施しました。そして、地域の中学生を招き、本校の生徒がメンターとなって中学生にもアイデアソンを体験してもらうことを通じて、本校の魅力を伝える場もつくりました」

DC講座は、生徒の多様な興味・関心に応える機会として、月曜日と金曜日放課後に開講される課外講座だ。講師は、同校の教師や地域の人を務める。講座の内容は多彩で、英語や簿記の試験対策講座、起業家育成講座、さらにはキャリアアコンサルティング、絵本の読み聞かせ、ダンス、ガーデニングなど、25年度は

図2

「日田未来学」のテーマ例

科目	タイトル	単元・分野・教材など
数学 I	日田を盛り上げるために必要なデータとは	データの分析
地理総合	日田の観光案内図と地形図を比べてみよう	地図とGISの活用・日常生活の様々な地図
科学と人間生活	日田で起こった過去の自然災害と、それに対する現在の対策について調べる	自然災害と防災
マーケティング	学校周辺地域の「宝」を探そう	マーケティングの広がり・観光地マーケティング

※学校資料を基に編集部で作成。

20の講座を開講。12月までに延べ約100人の生徒が受講した。

英語科の藤竿勇輝先生は、大学入試の過去問題などを用いてリーディングやライティングの演習に取り組み「受験英語対策講座」を担当した。

「受講した生徒からは『普段の授業よりも発展的な内容でやりがいがあった』『自分でも大学入試レベルの問題が解けるのだと自信が持てた』『英語を使う仕事に就きたいという気持ちがあります強くなった』といった感想が寄せられ、とても好評でした。英語の外部検定試験に高スコアで合格する生徒も増えました」

徳光校長は、日田未来学とDC講座が「学びを促すきっかけ」になることを願っている。

「私は就職や進学を控えた3年生と毎年度面談していますが、そこで必ず『どんな学びができれば、もっと学校が楽しくなると思う？』と生徒に尋ねます。25年度のDC講座のラインナップには、3年生の意見がたくさん反映されています。生徒が自分の興味・関心に応じて、将来につながる学びを主体的に選択できる

よう、総合学科としての取り組みをさらに充実させていきたいと考えています」(徳光校長)

変革の成果と展望

校時表の見直しなど、働き方改革も視野に

総合学科を設置してまもなく30年となる時期に大胆な変革を行った日田三隈高校。学校説明会で日田未来学やDC講座に興味を示した中学生から、「この講座は来年度も開講するのですか?」といった質問が出るなど、学校の新たな魅力は地域に着実に伝わっている。

「今後も地域の方々との協力を得ながら、地域を切り口に生徒が自分の可能性を広げられる学校として、本校の総合学科としての魅力を高めていきたいと思っています。そして26年度は、校時表の見直しなども進めて教職員にとっても魅力ある学校にしていく考えです」(徳光校長)

同校は「自らの生き方をデザインする」という、総合学科設置以来大

切にしてきたスローガンを持つ。そこには、自分はどんな人間なのか、どんな生き方を望むのか、その答えを見いだすために、様々な経験を試してほしいという願いが込められている。

「たくさん経験を通して自分が何者なのかを考え続けてほしいという願いは、本校がこれからも大切にしていってほしい教育の根幹だと思います。そして、そうした学校の願いが生徒に届いていることを確かめる大

切な機会が『30歳のレポート』です。今、学校は大きく変わっていますが、残すべき教育活動、受け継ぐべき思いはこれからも大切にしていきたいと、卒業生の1人として強く思います」(熊合先生)

総合学科を設置して「30歳」を迎える同校は、校内での活発な議論を経て、30年前の活気を取り戻し、未来へ向けて大きく踏み出した。きっとこれからも、学校としてのあり方を果敢に「デザイン」していくはずだ。

ベネッセが見た軌跡

学校への愛情と当事者意識が不易を守り、流行を創る

日田三隈高校を訪問する中で印象的だったのは、先生方が学校の発展に向けて高い「当事者意識」を持って取り組まれている点です。総合学科が新設され、30年を経る現在も、当初の「育成を目指す4つの力」の「不易」の部分を生先生方の協議のもとで大切にしながら、時代の潮流を踏まえた「流行」を柔軟に取り入れていくそのあり方に大きな感銘を受けました。教員や生徒の入れ替わりがある中で形骸化せずに継承していくことは大変なことだと察します。「シン Mikuma PAS System」は先生方や卒業生一人ひとりの学校への深い「愛着」と強い「当事者意識」から生まれる熱い想いがあるからこそ実現されるものだと感じました。私も担当者として日田三隈高校のさらなる発展に向けて、先生方との対話を重ねながら教育理念に沿ったご支援をさせていただきたいと思ひます。



株式会社ベネッセコーポレーション九州支社 大分県立日田三隈高校担当 井料央智

Web VIEWnext ONLINE

関連記事はこちら!

今回のテーマに関連する過去の記事は、教育情報総合サイト『VIEW next ONLINE』でご覧いただけます。

2010年6月号 指導変革の軌跡 大分県立日田三隈高校
▶ https://view-next.benesse.jp/view_section/bkn-hs/article09571/



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任